

プロジェクト名	スマイルハウス建設(元子ども兵社会復帰施設住民参加型建設)プロジェクト
実施地域	ウガンダ共和国 グル県
実施期間	8ヵ月間 (2005年10月～2006年5月) 完了
ターゲットグループ	元子ども兵士／現地住民
受益者数	約400人
プロジェクト目標	元子ども兵が職業技術(主に洋裁技術)を身につけ収入向上活動を始めていく為の施設が整備され、元兵士と住民がこの施設の建築補助共同作業や、和解促進の為のワークショップを通して両者の和解が促進される

## (1)プロジェクトの概要

洋裁訓練を主目的とした元子ども兵の社会復帰施設を元子ども兵と現地住民が協力して建設する住民参加型建設プロジェクトです。元子ども兵と地域住民が建設作業、水汲みなどの補助作業に関わり、同時に元子ども兵と地域住民への和解促進のためのワークショップを期間中8回開催し、両者の和解促進、関係改善に努めました。

また、ミシン、机、椅子、黒板等の訓練に必要な機材、備品が整備され、完成後は同棟での[元子ども兵社会復帰支援プロジェクト](#)のベースとして活用しています。同施設が完成する以前は協力団体の施設などを借りてワークショップなどの活動を行ってききましたが、この施設ができたことでより効果的、効率的にプロジェクトが実施出来るようになりました。

## (2)建設作業の様子



施設建設前の敷地。大きさは40m×50m。グル市中心街から車で5分の所にあり、敷地の隣には公立の小中学校が建設中。(現在は完成)。写真中央の木の周りで近隣の住民たちと協力し建設資材用のレンガ作りが始まった時の様子。





基礎工事の様子



レンガ塀の積み上げ作業



屋根工事



建物の骨格が完成



2006年2月、当会代表も日本から駆けつけ棟上式を行った。  
写真左、作業員たちに食事を振舞っているのが代表の鬼丸。



2006年4月施設が完成。1つの大教室と2つの小教室の3部屋に分かれている

### (3)スマイルハウス内の様子



大教室の様子



スマイルハウスに搬入されたミシン

### (3)紛争(再発)予防への配慮について

ウガンダ北部のグル県では住民の87%が国内避難民となり(2005年当時)、同地へは多くの援助機関から大量の資金が注入されていますが、援助プロジェクトの(調達業務などの)過程で建設を請け負う大手の建設業者や運送業者、流通業者、資材調達先となる卸売業者、援助関係者など一部の裕福層やその周囲(親族や友人など)のみに資金が偏って流れ、地元での貧富の格差を拡大する恐れがあります。また汚職の問題なども絡み、このような紛争地域で貧富の格差が拡大していくことは、貧困削減を難しくするだけでなく、紛争後の新たな争いの火種や社会不安の要因にもなります。当会では、紛争予防の視点からプロジェクトの実施過程においても(貧富の格差の拡大や住民間の対立など)地域社会へのマイナス影響を最小限に抑えるよう配慮し、今次建設プロジェクトにおいては、大手建設業者ではなく、個人のエンジニアと契約し資材調達から施工管理までを同エンジニアと協力し当会現地スタッフが共に行い、元子ども兵と地元の貧困層の人々を優先して雇用することで両者の和解促進、関係改善にもつながるよう努めました。



同プロジェクトにおいては松緑神道大和山様より建設費を、(株)ピュアライフジャパン様より敷地の土地代、机、椅子、発電機などの資機材の購入費を、(株)イマン様より訓練用のマシンをご支援いただきました。多大なご支援に心より御礼申し上げます。

[スマイルハウスでの活動状況はこちら「元子ども兵社会復帰支援プロジェクト」](#)